



## 緑ヶ丘高校への思い

小島 淳子 高校32期



生徒として、保護者として、そして職員として関わった横浜緑ヶ丘高校が、創立100周年を迎えることを心から嬉しく思います。

私が生徒として通っていた頃の校舎や中庭などは大きく姿を変えました。体育館の新築も進んでいると伺いました。私が副校長として勤務していた時代に、緑の「森」に別れを告げ、新しい3階建ての校舎が完成しました。ちょうど創立90周年とも重なり、在校生、職員、牧陵会、後援三徳会の方々とこれからの「緑ヶ丘」の進む道、理想の姿を語り合いながら、90年の節目をお祝いしたことが思い出されます。

生徒の皆さんが過ごす学習環境は時代に合わせて新しくなっていきますが、そこにある「緑ヶ丘」の学校文化、自由におおらかに、でもしっかりと先を見据えて自分の力を発揮して、社会に関わっていこうとする姿勢は変わらないと思います。混沌とした時代にあっても、創造力を発揮し、人と人とのつながりを大切にしながら、それぞれが生きる社会で活躍している卒業生の話聞くにつけ、そのように感じています。私自身、「緑ヶ丘」で過ごした3年間は、人生の礎になっていることを、今、改めて感じています。幸せなことだと思います。これからも多くの人々の心のよりどころとなっていくことと思います。

お茶の水女子大学理学部数学科卒業後、神奈川県立高等学校の数学科教員として勤務。平成25・26年度は、副校長として横浜緑ヶ丘高校に在職。現在、鎌倉女子大学教育学部准教授として教員の育成に従事している

